

カップルのふれあいを豊かにする新ブランド『CARESSA（カレッサ）』の °C-STONEがレッド・ドット・デザイン賞2022を受賞！

株式会社TENGA（東京都港区/代表取締役社長 松本光一）が展開するカップル向けブランド『CARESSA』の「°C-STONE」が、世界の3大デザイン賞の1つである「レッド・ドット」でプロダクトデザイン賞を受賞いたしました。



製品概要

CARESSA °C-STONEはホットストーンセラピーをモチーフにした、カップルのコミュニケーションを促進するウォーミングデバイスです。最大約44℃まで温まる本体を、肩や背中、脚などのお好みの部位に当ててリラックスタイムをお過ごしいただけます。ホームスパ体験を通してカップルの絆を深め、心も身体も癒すことができるアイテムです。

■製品詳細

- ・値段：¥9,900（1個、税込）
- ・本体サイズ：D98×W70×H46mm
- ・本体重量：約140g
- ・製品情報：<https://store.tenga.co.jp/product/CAA-001>



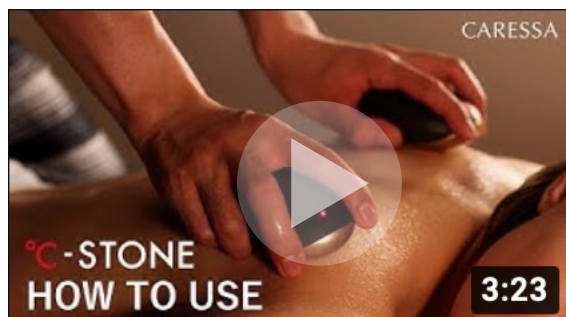
■製品へのこだわり

°C-STONEは、肌に当たるゴールドの部分が、すべて均等に温まるように設計されています。中のヒーターがある箇所は1度高く、ある箇所は1度低くというように、とても細やかな調整を施しました。さらに金属（ゴールドのパーツ）と樹脂（黒のパーツ）の三次元曲面をTENGAの技術力を活かし、ぴたりと組み合わせることで機能美と造形美を両立させました。防水仕様で丸洗いができることもポイントで、ご自宅で手軽に本格的なホームスパをご堪能いただけます。

■CARESSAブランドアイテム発売場所

- ・ TENGA公式オンラインストア
- ・ Amazon
- ・ iroha STORE 大丸梅田店
- ・ TENGA STORE TOKYO
- ・ iroha POPUP STORE 渋谷PARCO店*

■°C-STONEの使い方 (Youtube)



*2022年8月末までの期間限定

<https://www.youtube.com/watch?v=IEQ7qmPfnJU>

レッド・ドット・デザイン賞とは

ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンターが主催する国際的なプロダクトデザイン賞です。ドイツの「iFデザイン賞」とアメリカの「インターナショナル・デザイン・エクセレンス賞」と並び世界三大デザイン賞のひとつに数えられています。

レッド・ドット・デザイン賞に関する詳細

<https://en.red-dot.org>

※受賞製品のサイト上での発表は2022年6月20日を予定しております。



reddot winner 2022

カップルのふれあいを豊かにする CARESSA (カレッサ) ブランドについて

■ CARESSAとは

CARESSAは、ふれあい、寄り添うことの大切さを伝え、そのきっかけを提供する、年齢や性別を問わない新ブランドです。「肌と肌で愛し合おう。」をコンセプトとして、カップルが「肌と肌のふれあいにより、心のつながりを強めより仲良くなってほしい」という願いが込められています。

■ 製品一覧



※写真中央の『CARESSA MATTE - EFFECT BODY MIST』は2022年夏発売予定

■ ブランドPV (Youtube)



<https://www.youtube.com/watch?v=nuAsqBTu11Y>

夏こそ挑戦したい「温活」と℃-STONE

「温活」とは、身体を温めることにより本来持っている免疫力を上げることです。夏は、電車や室内で冷房にさらされたり、冷たいものを食べる機会が増えるという方も多いのでは。そんな方に℃-STONEを使った「温活」がおすすめです。

■ 体を温めるとどのような効果が？

研究^(※1)によると、体温が1度下がっただけで、体内酵素の働きは50%、基礎代謝は12%、免疫力は37%低下し、血流が低下してしまいます。酵素がうまく働かないことで細胞内で酸素が不足し、二酸化炭素や老廃物が滞留する原因となるそうです。つまり、体温を適正に維持することは、ヒトの生命を健全に保つために必要なことなのです。

外部からの温熱刺激は、血液循環の促進、筋緊張の軽減、リラクゼーション効果をもたらす^(※2)と言われています。ウォーミングデバイスである℃-STONEは「温活」にも最適です。

※1 出典：木村公喜 体温と健康づくりの関係～バイタルサインとしての体温～ 日本経大論集 第45巻 第1号 p.98

※2 出典：馮 晶(2013) 手を温めることによるリラクゼーション効果の研究 桜美林大学 博士課程論文

https://www.obirin.ac.jp/academics/postgraduate/international_studies/course_humanities/papers_doctoral/r11i8i00001cb9y-att/2013s_feng_1.pdf